

第4章

今後の札幌の 文化芸術振興施策

ステージ1
機会の充実

ステージ2
未来への布石、育成、支援

ステージ3
文化の保存・活用

ステージ4
視点の検討

この章では、第3章において整理した、4つのステージと施策の再構築の考え方を踏まえ、各施策を推進するに当たっての方向性や、各施策において実施することを想定している取組例をまとめています。

ステージ1 機会の充実

全ての人々に充実した文化芸術活動への参加の機会・場を提供するとともに、文化芸術が有する社会包摂機能が発揮されるような環境整備につながる施策を定めます。

ステージ2 未来への布石、育成、支援

未来を担う子どもたちや、これからの札幌の文化芸術を担うアーティストやコーディネーター³⁰等の人材の継続的な育成・支援につながる施策を定めます。

ステージ3 文化の保存・活用

文化芸術や文化財が持つ創造性や価値を適切に保存継承しながら、教育、地域社会、福祉、経済など様々な分野と連携し、まちの活性化や地域コミュニティ形成、効果的な投資やイノベーション³¹、札幌のブランド発信につなげるなど、文化芸術が有する社会的・経済的価値の発揮につながる施策を定めます。

ステージ4 視点の検討

市民が入手しやすい情報の発信方法、文化芸術に関する情報の保存・蓄積の在り方、文化芸術の特性に留意した評価方法など、各ステージの取組を効果的に進めるための施策を定めます。

³⁰ 物事を調整する人。

³¹ 生産技術の革新のほか、新商品の開発、新市場・新資源の開拓、新しい経営組織の形成などを含む概念。技術革新。

ステージ1 機会の充実

(1) 施策の設定

全ての人々に充実した文化芸術活動への参加の機会・場を提供するとともに、文化芸術が有する社会包摂機能が発揮されるような環境整備につながる施策を定めます。

施策 1-① 多様な文化芸術に親しむ機会の提供

施策 1-② 文化芸術のための施設の活用等

(2) 施策の内容

施策 1-① 多様な文化芸術に親しむ機会の提供

音楽、美術、演劇、メディアアートなどの文化芸術イベントを継続して開催するとともに、まちのいたるところで、年齢、障がいの有無、経済的な状況に関わらず、あらゆる人が文化芸術に容易に触れることができる場や参加する機会をつくり、多様な価値観を尊重し、他者との相互理解が進む包摂的環境を推進する取組を進め、まちのにぎわいを創出していきます。企業への働きかけ、民間の主体的な取組とも連携を図りながら、札幌の文化芸術活動に刺激を与え、多くの市民に親しまれる取組を進めます。

主な取組

PMF（パシフィック・ミュージック・フェスティバル札幌）

札幌の中心部など、市民にとって身近な場所で、世界三大教育音楽祭の一つと言われるPMFが、世界水準の優れた音楽を気軽に聞くことができるコンサートを開催し、市民の感性や創造性を育むとともに、にぎわいの創出につなげます。また、会場に足を運ぶことが難しい方々へ鑑賞の機会を提供する取組を行います。

さっぽろアートステージ

11月を文化芸術月間と位置付け、文化芸術団体や民間企業、学校などと連携し、美術、演劇、音楽などのイベントを集中的に開催することにより、まちのいたるところに文化芸術によるにぎわいを創出します。どのような方にも表現活動を楽しんでもらえるような事業について検討していきます。

サッポロ・シティ・ジャズ

札幌独自の都市型ジャズフェスティバルとして、大通公園や芸術の森などでの野外ライブ、市内各所で行う市民参加型のライブなどに加え、道内他都市における小中学生向けのジャズワークショップなどの人材育成事業を行うとともに、今後も、地域の活性化及び札幌の魅力発信に繋がる事業を展開していきます。

札幌演劇シーズン

広く市民へ札幌で生まれた優れた演劇作品の鑑賞機会を提供することにより、演劇ファンのすそ野の拡大を図るため、夏と冬それぞれ約1か月に渡り、市内の複数会場で一定の評価を得た作品の再演を行います。

札幌国際芸術祭

既存の枠組に捉われず、時代の変化や技術革新、社会課題を踏まえながら新しい表現に挑戦をしている現代アートやメディアアートの分野において、世界で活躍するアーティストの作品に触れる機会を創出します。また、こうした作品に関心や親しみを持つことができるよう、象徴的でインパクトのある作品の展示や現代アートを学ぶプログラムなどの展開を図っていきます。

札幌交響楽団による鑑賞機会の提供

音楽専用ホールである札幌コンサートホール（Kitara）での演奏会のほか、学校や福祉施設での演奏会や教育・地域活動にも注力している、道内唯一のプロオーケストラに対して引き続き支援を行い、優れた音楽の鑑賞機会を市民に提供します。

札幌国際芸術祭

札幌国際芸術祭とは

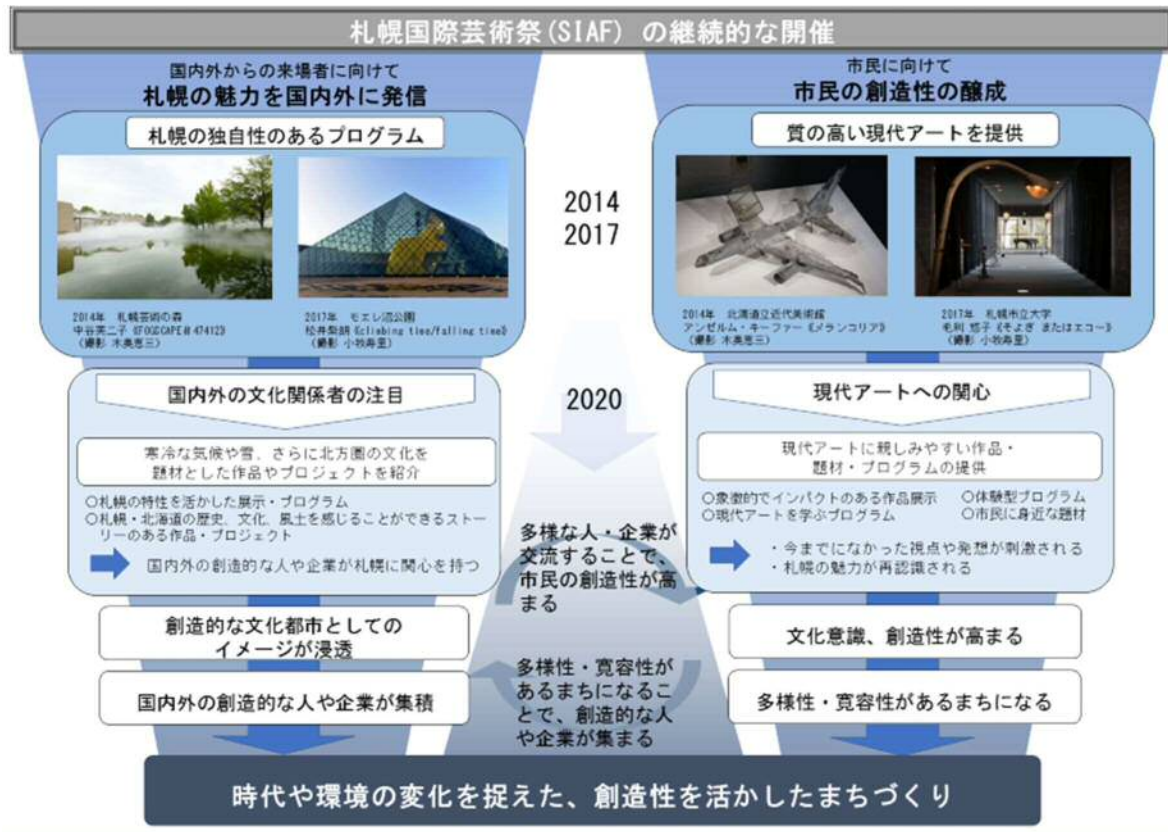
札幌国際芸術祭（Sapporo International Art Festival 略称SIAF^{サイアフ}）は、平成26年（2014年）から開催している3年に1度の芸術の祭典です。会期中は、世界で活躍するアーティストによる質の高い現代アート、メディアアートの作品やプログラムが、市内各所で展開されます。また、開催時期以外にも、継続的に札幌の特色を生かしたメディアアートのプログラムを展開するなど、他の創造都市ネットワーク加盟都市やアートフェスティバル³²とも積極的に連携しています。

【過去の札幌国際芸術祭】

	SIAF2014	SIAF2017
テーマ	都市と自然	芸術祭ってなんだ？
会期	7月19日～9月28日（72日間）	8月6日～10月1日（57日間）
会場数	18会場	44会場
参加アーティスト数/作品数	64組/214作品	151組/697作品
来場者数	478,252人	381,697人

札幌国際芸術祭の目指すところは

札幌国際芸術祭の開催を通して、「創造的で多様な人や企業が集まり交流すること」「文化意識、創造性が高まり、多様性・寛容性があるまちになること」が相互に作用することで、時代の変化を捉え創造性を生かしたまちづくりに繋がることを目指し、取り組み方を工夫しながら、各種プログラムを「札幌の魅力を国内外に発信」と「市民の創造性の醸成」の2つの柱立てで展開していきます。



³² 芸術祭などの現代アートを紹介する展示を中心に展開されるアートを題材としたイベント。

文化芸術施設は、市民に感動と希望をもたらす、創造性を育み心豊かな生活を実現するための場であるとともに、社会参加の機会を開き、地域コミュニティの創造や再生、地域発展を支える場でもあるという点を念頭に置いて、施設を運営していきます。

また、文化芸術は、家庭、学校、地域社会など様々な場所で教育や学習活動の一環として展開されていることから、文化芸術施設を市民の創造性喚起や学習の場として活用しやすくしていきます。

主な取組

文化芸術施設における取組の充実

鑑賞・発表・表現の場、市民とアーティストなどの交流の場、地域活動の場など、施設の特徴を生かした運営を行うとともに、それぞれの施設の専門性を連携させるなど、文化芸術施設全体の機能を有効に活用する取組を行います。

札幌芸術の森

豊かな自然環境の中で、音楽・舞台芸術、工芸などの創作・発表、野外美術館や屋内美術館での美術鑑賞など、多彩な文化芸術に触れる機会を市民に提供していくとともに、地域住民の活動拠点として、隣接する市立大学や地域団体との連携を深めていきます。

札幌コンサートホール (Kitara)

音楽専用ホールとして、国内外のトップクラスの演奏家による質の高い音楽や、気軽に楽しめるワンコインコンサート³³など、子どもからお年寄りまで、また、障がいのある方でも安心して施設を利用し、誰もが音楽を楽しめる機会を提供できるよう、設備のバリアフリー化などについて引き続き工夫を重ねていきます。

札幌市教育文化会館

教育文化会館が有する舞台機構を生かした作品を上演し、市民に伝統芸能を含む質の高い舞台芸術作品に触れる機会を提供するほか、子どもや初心者も参加できるセミナーやワークショップ³⁴を引き続き行い、市民の学習や創造性を育む取組を進めていきます。

札幌市民ギャラリー

より多くの市民に発表機会を提供することを念頭に置いた施設運営を行っていくほか、創成東地区の拠点施設として、地域住民との連携事業を継続していきます。

本郷新記念札幌彫刻美術館

本市ゆかりの彫刻家である本郷新の顕彰、彫刻を中心とした美術の振興の場として、市民の貴重な文化資産である本郷新の作品・資料の展示・公開を行うとともに、幅広く創造性豊かな作家や作品に触れる機会を提供していきます。

札幌市民交流プラザ

高度な機能を有する劇場では、本格的な舞台芸術や多様なジャンルの公演鑑賞機会を提供するほか、札幌文化芸術交流センター (SCARTS) では、札幌における多様な文化芸術活動の中心的な拠点として、文化芸術の普及・発信、調査研究、人材育成に取り組んでいきます。また、図書・情報館においても、文化芸術関係の資料を配架するなど、連携、支援を積極的に行います。

³³ 札幌コンサートホール (Kitara) が開催するコンサートのうち、気軽に楽しめるように入場料金を 500 円としているもの。

³⁴ 自発的な参加のもと、みんなで意見を出し合うなどの共同作業を通じて、創造的な成果を導く参加体験型の学習、創造の手法。

札幌市資料館

札幌市資料館の耐震、保全及びバリアフリー化整備の着手と並行して、これまでの美術作品等の展示等や学習活動の場としての役割に加え、創造活動の場としての活用について検討します。

さっぽろ天神山アートスタジオ

アーティスト・イン・レジデンスの拠点として、滞在する国内外のアーティストが作品制作やワークショップなどを行う過程やこれらの活動により生まれた組織・団体によるネットワークを活用していくとともに、市民と交流する場である天神山アートスタジオの運営を継続します。

あけぼのアート&コミュニティセンター

旧曙小学校跡施設を再整備し、文化芸術活動を行う団体や個人への長期利用スペースとしているほか、図書室や交流室を一般開放し、子どもや高齢者といった地域住民が利用できる施設として定着しています。今後も、活動場所の提供だけでなく、地域住民と連携した事業を実施し、地域の一員としての施設運営を継続していきます。

ターミナルプラザことにパトス

地下鉄琴似駅構内に開設され、コンサートやイベントなどの各種催し物・展示会など、幅広い用途に利用できる施設として、多くの市民に利用されています。今後も、文化芸術活動を応援する事業や周辺施設と連携した事業を行うなど、地域に根差した活動を継続していきます。

文化活動練習会場学校開放

音楽、演劇などの活動を行っているアマチュアグループ、サークル、市民等に練習会場として市立小学校の音楽室等を開放する取組を継続し、利用者の拡大に向け、認知度の向上や、より利用しやすい仕組みを検討します。

公共空間の創造の場としての活用

芸術作品の展示、映像作品の発表、文化芸術イベントを行う場として、多くの市民や観光客が行き交う都心部の公共空間を活用し、創造的な活動に触れる機会や、にぎわいの創出を図ります。

文化芸術に関する生涯学習の推進

札幌市生涯学習センターや市民ホールは、多くの市民により、文化芸術に関わる学習成果の発表の場として活用されています。また、生涯学習センターを拠点として、市民の多様な学習ニーズに応じた学習機会を提供する「さっぽろ市民カレッジ」を実施しています。市民自らの意思で新たな文化芸術を学び、創造することができるよう、生涯学習に関する取組を継続します。

今後の大規模ホールの在り方検討

今後の大規模ホール³⁵の在り方については、現在の3館（札幌文化芸術劇場、教育文化会館、市民ホール）を維持しながら、各施設のホール利用状況の動向等を踏まえ、教育文化会館及び市民ホールの更新時期を見据えた将来的な3館体制維持の必要性などについて検討を進めていきます。

³⁵ ここでは、1,000席以上の客席を有する多目的ホールのこと。

札幌市文化芸術施設の取組事例①～誰もが楽しめる機会の提供～

札幌市では、子どもから高齢者まで、障がいのある方や外国人の方などすべての市民が快適に文化施設を利用し、文化芸術に触れることができるために、さまざまな取組を実施しています。

例えば、託児室（授乳室）、多目的トイレ³⁶、オストメイト対応トイレ³⁷、スロープの設置などのほか、駐車場利用やご予約時、施設内におけるスタッフのご案内・誘導などです。

また、年齢や障がいの有無を問わず、誰にとっても分かりやすく利用しやすいホームページの実現を目指し、ホームページの利用しやすさの維持・向上に努めています。



教育文化会館では「コミュニティダンスワークショップ」を開催。幼児から高齢者、障がいのある方など、あらゆる人が参加でき、参加者からは「ダンスで心が解放された」「ありのままの自分でいいのだと気づかせてくれた」などの声が寄せられています。

また、サッポロ・シティ・ジャズで行う「ユニバーサルジャズ」では、会場の段差解消や通路幅の拡大を行うほか、専門の救護スタッフの配置、歌詞やMCの手話通訳の実施など、福祉団体とも協力しながら、障がいのある方が気軽に楽しめるコンサートを開催しています。



コミュニティダンスワークショップ



ユニバーサルジャズ

「Kitara ファースト・コンサート」では、盲学校や聾学校の児童鑑賞に際して、点字パンフレットの作成や曲や楽器の解説に手話を用いるなどの取組を行っており、また大ホール内に磁気ループエリア³⁸を敷設しています。



Kitara ファースト・コンサート

写真の提供：札幌市芸術文化財団

³⁶ 車いす利用者だけでなく、高齢者、外見からはわかりづらい内部障がいのある方、子ども連れの方などが使いやすい様々な機能を備えたトイレのこと。

³⁷ 病気などにより臓器に機能障がいのある人で、手術で腹部に便や尿の排泄口（ストーマ）を作っている人（オストメイト）が、便や尿の溜まった袋（パウチ）を処理しやすく、また排泄口などを清潔に保つことのできる設備があるトイレのこと。

³⁸ 音声信号を磁気誘導アンプを通し、床等に敷設したループアンテナに電気信号として送り、ループアンテナ内で誘導磁界が発生し音声磁場ができるので、磁気コイル付補聴器（補聴器の“T”マーク）で音声信号として聞くことができるもの。

札幌市文化芸術施設の取組事例②～オーディエンスへの支援～

札幌コンサートホール（Kitara）では、オルガンの名曲演奏に加え、オルガンの仕組みを映像を用いて解説することで、初心者や子どもたちも楽しめる「Kitara あ・ら・かると ダヴィデさんのオルガンコンサート」を開催するなど、音楽や楽器への理解を深めてもらえるよう取り組んでいます。



Kitara あ・ら・かると
ダヴィデさんのオルガンコンサート

教育文化会館で開催する日本の伝統芸能である能楽や文楽公演では、会場に札幌国際プラザの協力で外国語対応スタッフの配置や外国人向けに SNS を通じた情報発信などに努めるほか、英語対応のイヤホンガイド³⁹の導入やタブレット端末の貸し出しにより、演目の解説、同時通訳を行っています。

また、外国の方をはじめ、若者など能に触れたことのない方を対象としたワークショップなどにより、多くの方が伝統文化に親しむきっかけをつくるための取組を実施しています。



教文伝統芸能シリーズ



能楽入門ワークショップ

札幌芸術の森美術館や本郷新記念札幌彫刻美術館では、作品への理解を深めてもらえるよう「アーティストトーク」や「ギャラリートーク」を開催しているほか、子どもたちが彫刻作品を見て触れて楽しむ鑑賞ツアー「ちびっ子美術館探偵団」を開催するなど、初心者からアートに親しんでいる方までを対象とした、鑑賞支援の取組を行っています。



アーティストトークの様子



ちびっ子美術館探偵団

写真の提供：札幌市芸術文化財団

³⁹ あらすじ・配役・衣裳・道具・歌舞伎・文楽の独特な約束事などを、舞台の進行にあわせて同時解説する音声ガイド。

ステージ2 未来への布石、育成、支援

(1) 施策の設定

未来を担う子どもたちや、これからの札幌の文化芸術を担うアーティストやコーディネーター等の人材の継続的な育成・支援につながる施策を定めます。

施策 2-① 子どもたちの文化芸術活動の充実

施策 2-② アーティスト等のステップアップ促進

施策 2-③ 文化芸術をつなぐ新たな役割の育成・支援

(2) 施策の内容

施策 2-① 子どもたちの文化芸術活動の充実

文化芸術を継承し、発展させていくため、感受性豊かな子どもの頃から、文化芸術に親しみ、その楽しさを実感する様々な機会に触れることを通じて、芸術的感性や豊かな心を育てていく必要があります。今後も、学校や民間の文化芸術団体の活動とも連携しながら、子どもたちが継続的にこのような体験をできる機会を設け、札幌の文化芸術の未来を担う人材の育成を図っていきます。

主な取組

(☆) は、既に実施しているが、初めて計画に盛り込んだ取組

0 さいからのげいじゅつのもり

札幌芸術の森では、小さい頃から遊びながら芸術を体験する「0 さいからのげいじゅつのもり」を、積雪時にシリーズ化して開催してきており、今後も乳幼児のいる家庭を対象としてプログラムの提供を図っていきます。

Kitara Kids ミュージック & アーツクラブ

子どもたちの感性を伸ばし、能力を引き出すことを目的とした、音楽とアートによる体験型のワークショップを継続して実施しており、今後ともプロのアーティストや音楽大学などの教育機関とも協力・連携しながら、より多くの子どもたちが文化芸術に親しむことができるよう取り組んでいきます。

人形劇、児童劇等の制作・発表 (☆)

子どもの情操面のかん養を図ることを目的に、人形劇・児童劇の鑑賞機会を提供するとともに、人形劇・児童劇の制作団体及び人材の育成に関する取組を通して、子ども自ら発表できる場を提供します。

子どもの美術体験

小学校にアーティストを派遣して一緒に創作活動を行う「おとどけアート」、市内の全小学 5 年生を美術館に招待して作品への興味や関心を高める「ハロー！ミュージアム」などのプログラムにより、様々な機会を通して楽しみながら美術を体験してもらう取組を行います。

Kitara ファースト・コンサート

豊かな感性や創造性を育むことを目的に、市内の全小学6年生を札幌コンサートホール（Kitara）に招待し、本格的なオーケストラ演奏を鑑賞する事業を教育委員会と連携して実施しています。これまでに延べ20万人を超える子どもたちが鑑賞しており、今後も継続して魅力あるプログラム編成などに取り組んでいきます。

子どものミュージカル鑑賞

本格的なミュージカルの素晴らしさを感性豊かな子どもたちに体験してもらうため、市内の全小学6年生を対象に鑑賞する機会を提供します。

札幌市中学校文化連盟（中文連）の展示・発表支援

全国レベルで活躍する本市中学生の文化芸術活動の発展を支援していくため、中文連の演劇発表会には教育文化会館を、美術・書道展には市民ギャラリーを、音楽会には市民ホールを提供するなど、札幌の次世代の文化芸術活動を担う人材の育成支援に引き続き取り組みます。

市民交流プラザを活用した取組

子どもたちに本格的な舞台芸術公演を鑑賞する機会を提供するほか、札幌文化芸術交流センター（SCARTS）では、アーティストとともに文化芸術に気軽に触れることができる機会を提供していきます。

PMF リンクアップ・コンサート、吹奏楽セミナー（☆）

小学生が事前に授業で学んだことを生かして、歌唱やリコーダー演奏でPMFオーケストラと共演する「リンクアップ・コンサート」や、PMFの教授を務める一流オーケストラの演奏家が中学校・高等学校の吹奏楽部などを対象にセミナーを実施するなど、PMFの質の高い音楽を札幌の子どもたちに提供します。

文化芸術活動をさらに充実・発展させたいという意志を持っている地元の個人・団体に対して、発表の場、活動拠点やプロモーション⁴⁰の機会を提供するなど、アーティスト等がステップアップするための支援や環境整備を行います。また、企業や個人などからの支援の活用に向けた取組を周知するなど、幅広く文化芸術が支援される環境を醸成する取組を進めます。

主な取組

(★)は、新規に実施又はレベルアップする取組
 (☆)は、既の実施しているが、初めて計画に盛り込んだ取組

アーティスト等に対する活動支援及び環境整備

アーティストや団体からの様々な相談に対する情報提供やアドバイスを行うほか、文化活動に関心を持つ企業や団体等とアーティストをマッチング⁴¹し、活動機会の増加につなげていきます。また、天神山アートスタジオにおけるアーティスト・イン・レジデンスのみならず、民間活動団体等において蓄積されている滞在支援活動についても、その促進を図るために活動周知等の側面的支援を検討します。

発表の場の提供 (☆)・表彰制度の実施

音楽、演劇、舞踊、美術、文芸など幅広い分野で市民の創造・発表活動を積極的に推進する市民芸術祭を開催するほか、若手を含むアーティストの育成、チャレンジやステップアップに資する顕彰制度を実施します。

パブリックアートを支える仕組みの整備 (★)

野外彫刻などのパブリックアート⁴²について、作品を良好な状態に保ち、鑑賞できるよう、彫刻の補修を進めていく枠組みを整備します。

助成制度の在り方の検討 (★)

文化芸術振興助成金の制度の運用方法等の見直しを進め、対象となる事業への評価・助言といった機能を備えた新たな補助制度の構築について検討します。

幅広い支援の環境醸成

様々な支援に支えられた取組の情報を発信するなど文化芸術への支援が身近なものとして感じられる環境の醸成を図る取組を検討します。

⁴⁰ 宣伝。

⁴¹ 組み合わせること。

⁴² 公園や道路など一般に誰でも出入りできる公開された公共空間に設置される彫刻などの美術作品。

文化芸術の持続的な発展には、創造する側、鑑賞する側、場の提供者、支援者など様々な関係者の間に入り、事業全体の仕組みを調整し、創り上げていくアートマネジメントはなくてはならない機能であり、文化ボランティアも重要な人材です。このような担い手の社会的意義等についての理解も促しながら、人材の育成や支援についての取組を行い、自発的な活動の広がりにつなげていきます。

主な取組

アートマネジメント機能の強化

アートマネジメント人材の能力向上とネットワーク形成を目的とした講座やワークショップを開催し、文化芸術活動の質の向上と活性化を図ります。

アートマネジメントの人材育成・活動支援

文化芸術に親しむことができるイベントを企画、実現していくスキルを習得するための研修等を実施し、ボランティア⁴³な活動を通して文化芸術と人々をつなぎ、地域コミュニティを活性化させる市民の育成に取り組みます。

アートボランティアへの支援

文化芸術に関するイベント、団体、施設等の趣旨に賛同して、魅力向上や運営の支援に関するボランティア活動を行う団体の情報提供を行うなど、自発的な活動を行う人の活動の輪を広げる取組を行います。

⁴³ 自発的、任意であるさま。

1 札幌市民交流プラザ

平成30年10月7日に開館した「札幌市民交流プラザ」には、

- ・国内外の優れた舞台芸術やさまざまな公演を鑑賞できる「札幌文化芸術劇場（hitarū）」
- ・文化芸術活動をサポートし、札幌の文化芸術を支え、育てていく「札幌文化芸術交流センター（SCARTS）」
- ・都心に集う人々に仕事や暮らしに役立つ情報を提供する課題解決型図書館「札幌市図書・情報館」があります。

札幌における多様な文化芸術活動の中心的な拠点であるとともに、市民の仕事や暮らしに関する課題の解決を支援し、それらを通して多くの人が交流する場となることを目標としています。



2 札幌文化芸術交流センター SCARTS のミッション

ひと・もの・ことをつなぐ。創造性の光をむすぶ。

一人ひとりの創造性をささえる ——
 あたらしい表現の可能性をひらく ——
 すべての人に開かれたアートとの出会いをつくる ——
 それが SCARTS のミッションです。

札幌で暮らす人・学ぶ人・働く人、
 人の手がつくる作品や場所、そこから生まれるできごと。

このまちには、さまざまな創造の可能性が
 光の点のように散りばめられています。
 SCARTS は、それらの点をむすぶことを通して、
 ミッションを実現していきます。

3 札幌文化芸術交流センター（SCARTS）の主な活動

- (1) 市民の創造的な活動を支援する
 - ・文化芸術活動に関する対面相談サービス、ウェブでの情報提供、レクチャーの開催
 - ・施設を利用される方などに対する技術面でのサポート
 - ・アートコミュニケーター⁴⁴を介した創造的なコミュニケーションの場づくり
- (2) 時代をとらえた新たな表現の可能性を探究する
 - ・アーティスト・研究機関・企業等との協働によるリサーチや企画・制作
 - ・先進性、実験性のある展覧会・公演などの開催
- (3) 誰もが気軽に文化芸術にふれられる機会を創出する
 - ・文化イベントなどに関する情報提供
 - ・創作体験のワークショップなどの開催
 - ・無料のコンサート、パフォーマンスなどの開催



⁴⁴ 札幌市民交流プラザを拠点に、アーティストや文化芸術に関わる専門家。SCARTS のスタッフとともに「市民とアートのつなぎ手」として活動する。

ステージ3 文化の保存・活用

(1) 施策の設定

文化芸術や文化財が持つ創造性や価値を適切に保存継承しながら、教育、地域社会、福祉、経済など様々な分野と連携し、まちの活性化や地域コミュニティ形成、効果的な投資やイノベーション、札幌のブランド発信につなげるなど、文化芸術が有する社会的・経済的価値の発揮につながる施策を定めます。

施策3-①

文化遺産・自然遺産の保存と活用

施策3-②

文化芸術を生かした様々な事業との連携強化

施策3-③

札幌の文化芸術を通じた国内外への魅力発信

(2) 施策の内容

施策 3-① 文化遺産・自然遺産の保存と活用

市民が札幌の貴重な文化遺産や自然遺産の価値を十分に認識し、これを大切に保存、継承、発展させることが重要です。また、未指定も含めた文化財や伝統的な文化等の多様な魅力をまちづくりに積極的に活用し、地域の活性化やコミュニティとのきずなを深める環境を整備していくことで、次の世代への橋渡しを行っていきます。

主な取組

(☆) は、既にも実施しているが、初めて計画に盛り込んだ取組

(仮称) 札幌博物館整備の推進

「北・その自然と人」を基本テーマに、札幌独自の自然・歴史・文化的資産を体系的に収集・保存し、その調査・研究を行い、市民の共有財産として未来に継承する博物館づくりを目指しています。平成 27 年（2015 年）に策定した「(仮称) 札幌博物館基本計画」を基に、整備に向けた諸計画を策定していきます。

博物館活動センター事業の推進 (☆)

博物館計画推進のための活動拠点として開設した「札幌市博物館活動センター」では、札幌の自然や街の成り立ちに関する調査・研究を進め、札幌の独自性を明らかにしていきます。また、その成果や収集された資料を活用した、教育・普及・交流事業を進め、学校や地域、関係機関との連携を拡大するとともに、札幌の魅力の向上に努めていきます。

文化財の保存と活用

文化財施設の適切な保存・活用のため、保全計画に基づく計画的な修繕を進めると同時に、施設の耐震化についても検討します。

文化財の総合的な保存・活用のための指針となる「札幌市歴史文化基本構想」を策定します。地域興しや観光、教育等の各分野で文化財を有効活用し、市内外の人々に対して札幌の新たな魅力を発信します。

埋蔵文化財の保存と活用

丘珠縄文遺跡を適切に保存し、地域の歴史資源、文化資源、教育資源として、市民とともに、その価値を将来へと伝えていきます。また、縄文体験活動や市民発掘を通して、札幌の縄文文化の魅力を発信していきます。

無形文化財保存伝承

アイヌ民族の伝統行事であるアシリチェプノミ⁴⁵、市指定無形文化財である丘珠獅子舞の保存伝承事業に対する支援を行います。

アイヌ文化の保存・継承・振興

アイヌ文化の保存・継承・振興と市民理解の促進がさらに進むように、アイヌ文化交流センターを中心として、生活民具等の展示や文化体験講座、イベント等に合わせた情報発信などを行います。

景観資源の保全・活用

景観を特色付けている自然や建築物、工作物、生活習慣など、良好な景観を形成するための大切な景観資源を保全・活用するため、景観重要建造物等や札幌景観資産の指定のほか、景観上の価値の捉え方を拡大し、市民等に広く周知し、その活用を促進するために景観資源を登録する「活用促進景観資源」の制度の推進にも取り組みます。

伝統的な食文化の継承（☆）

学校、保育所等や各種の催しなどを通じて、行事食、郷土料理、食事の作法等に関する情報提供、普及啓発を行い、伝統的な食文化の継承を図ります。

⁴⁵ 新しい鮭（アシリチェプ）を迎えるためのアイヌ民族の伝統行事。札幌では毎年9月に豊平川の河川敷で開催される。

札幌市博物館活動センターの活動

1 札幌市博物館活動センターとは？

札幌市博物館活動センターは、(仮称)札幌博物館の整備に向け、さまざまな人や機関との連携・交流を図りながら、市民参加・ソフト重視の博物館づくりを進める活動をしています。札幌の独自性を自然史の観点から明らかにするため、博物館活動の基盤である「調査・研究」「資料の収集・保存」、それらを活用した「普及・交流事業」を行っています。

(1) 調査・研究

○サッポロカイギュウの研究

豊平川の河床⁴⁶で平成14年(2002年)に発見され、翌年発掘。産出した地質年代は約820万年前で、世界と日本の海牛類化石と比較・研究した結果、サッポロカイギュウは寒い海で進化した世界最古の大型海牛であり、進化の謎を解く貴重な標本であることが分かりました。

○小金湯産クジラ化石の研究

豊平川の河床で平成20年(2008年)に発見され、平成23年(2011年)まで4年にわたり頭骨から尾椎までのほぼ全身を発掘。推定約1000万年前のセミクジラ科の化石で、現在研究中の大型のクジラ化石です。

○札幌の希少植物調査

主に札幌市版レッドリスト2016⁴⁷に掲載されている植物の生息状況を現地確認し、未来を視野に入れた植物の保全に活用できる情報や標本を得るための調査を実施しています。

(2) 資料の収集・保存

札幌市内や石狩低地帯を中心とした道内の標本資料について、学芸員が収集する他、市民からの寄贈を受け入れています。

(3) 普及・交流事業

サッポロカイギュウの復元骨格標本や、札幌で見られる植物や昆虫の標本などを施設内で展示しているほか、講座や野外観察会などの活動を行い、自然への興味関心を深め、札幌の自然の成り立ちや自然との関わり合いを市民へ広く伝えています。

2 札幌の独自性ってなあに？

世界的な気候変動やプレート⁴⁸の移動などにより誕生した札幌独自の自然とその成り立ちは、前述のサッポロカイギュウや小金湯産クジラなどの動物の巨大化を引き起こした要因の1つと考えられています。また、北緯43度という中緯度に位置する札幌は、「明確な四季」や「多様で複雑」な自然が特徴的であり、札幌は動物や植物、人やモノの東西交流、南北往来の交錯する地域となったことから、独自の自然や歴史、文化が形成されました。



小金湯産クジラ化石の
左上肢(手前)と頭骨(奥)



札幌の希少植物調査



化石ミニ発掘・レプリカ作製体



野外観察会「ぶらりネイチャー」



地誌見学会
「自然・文化財ウオーキングツアー」

⁴⁶ 河川の水の力により露出した岩盤、地層。

⁴⁷ 札幌市が作成した、札幌市に生息・生育する絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト。

⁴⁸ ユーラシアプレート、北米プレートなど地球表面を覆う十数枚の岩盤。

札幌市歴史文化基本構想

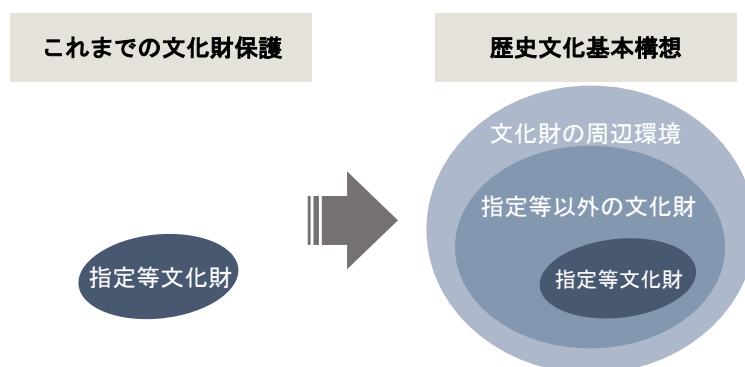
地域に存在する文化財を、指定・未指定にかかわらず幅広く捉えて的確に把握し、文化財をその周辺環境まで含めて、総合的に保存・活用するための構想です。

文化財を魅力あるまちづくりのために活用しながら良好な状態で後世に伝えていくためのマスタープラン⁴⁹として、「札幌市歴史文化基本構想」を策定します。

広範な文化財※を周辺環境も含めて総合的に保存・活用

- 法令による指定・登録されたもの（指定等文化財）に限らず、地域の特色ある文化財は市民の貴重な財産
- 行政・市民がともに新たな枠組みで文化財を掘り起こし、価値を共有する
- 時代の変化や担い手不足から、散逸・消滅の危機にある文化財を守り、積極的に生かす

【対象の広範化】



※文化財保護法による分類が困難なものも含めて、地域が大切にし、失いたくないと考えるものまで幅広く捉え、対象として取り扱います。

様々な場面で文化財を活用する

例えば…

- 地域住民による身近な文化財の価値・魅力の発見や、文化財を核とした交流人口増による、地域コミュニティの活性化
- 様々なニーズに応える札幌ならではの観光資源として、札幌の個性ある文化財と歴史文化体験を発信
- 学校、市民講座、文化財施設等における、子どもから大人までの幅広い興味に対応した、歴史文化の学びの機会の充実

魅力あるまちづくりの実現

札幌に残る文化財や歴史文化の魅力を多くの市民が共有し、その価値を守り、大切に使いながら次の世代に引き継いでいくことで、市民にも来訪者にも魅力的なまちづくりを実現します。

例えば…（構想が目指すまちの姿）

- 文化財の保存や活用に様々な主体が参画し、連携する活力あるまち
- 歴史文化の掘り起こしと新たな価値や魅力の発信で、様々な人を惹きつけるまち
- 市民のまちへの愛着を育み、豊かな暮らしを実現するまち

⁴⁹ ここでは、基本計画の意。

文化芸術の広がり①～暮らしの文化～

文化芸術基本法の改正

「暮らしの文化」は、地域の文化芸術に広がりを与え、またそれを支える土台としても機能しているほか、地域の魅力そのものとして、観光振興や国際交流の推進にも寄与することが期待されます。このため、文化芸術基本法では、食文化をはじめとする生活文化の振興や国内外への発信などといった支援を講ずる旨を規定しています。

札幌の特徴ある衣食住

北海道・札幌は、食文化をはじめ、特徴的な暮らしの文化を有しています。

例えば、新鮮な農水産物など高いブランドイメージを有する食や積雪寒冷地ならではの独特な生活スタイルなど。このような特徴的な札幌の暮らしの文化を生かした取組は、すでに民間レベルでも行われているほか、札幌市でも産業振興の視点からさまざまな施策が実施されています。

具体的な取組事例

市内の飲食店が連携し、絞り立てのミルクでつくられたソフトクリームや、地元の旬の果物などがふんだんに使われた見た目にも美しい贅沢なパフェで一日を締めくくる「シメパフェ」を札幌発祥の文化として、全国に広げる、札幌パフェ推進委員会の活動や、札幌のまちの良好なイメージを活用した地域ブランド「札幌スタイル」を構築し、市内中小企業等の競争力強化を図るため、ブランド力の向上やプロモーション活動の支援を行うプロジェクトなど、様々な取組が展開されています。



提供：札幌パフェ推進委員会



今後の取組

暮らしの文化は、比較的容易に受け入れやすい性質を有しており、世代を問わず文化芸術に触れる機会が少ない方を含め、人々の創造性を引き出すきっかけとなりうるものと考えられます。

また、普段、特別に意識しない暮らしの文化を点検し、見直すことで他の文化芸術との連携による観光振興面での効果なども期待できます。

このように、暮らしの文化とその他の分野との連携により、様々な魅力を充実・発展させる取組が今後期待されそうです。

暮らしの文化とは？

茶道、華道、書道、食文化その他の生活の文化である「生活文化」及び囲碁・将棋その他の国民的娯楽である「国民娯楽」や人々が文化的な「営み」を行う上で欠くことができない文化芸術という観点から、「祭礼」「年中行事」などの有形・無形の文化財等が含まれる。

文化芸術が持つ創造性を点から面へと広げていくため、教育、地域社会、福祉、経済など様々な分野との連携や、最新の科学技術・情報通信技術の活用により、まちの活性化や既存の観光資源の魅力向上に向けた取組を推進します。特に文化芸術を活用した集客交流の拡大など産業活性化に向けた取組に関しては、人口減少による大きな転換期を迎える本市において、非常に重要な取組となります。

なお、取組に当たっては、企業、ボランティア、NPOなどの様々な主体や、北海道内の他市町村などの幅広い地域などと連携をしながら、進めていきます。

主な取組

(★) は、新規に実施又はレベルアップする取組
 (☆) は、既の実施しているが、初めて計画に盛り込んだ取組

観光資源、科学技術と文化芸術の融合した取組の推進

豊富な観光資源、教育研究機関や ICT⁵⁰関連の企業・人材の集積といった本市が有する強みに、文化芸術をはじめとする創造的な要素を加えた産学官の連携によるイベントの開催や、創造性の誘発にもつなげる映像の力の活用を通じて、既存資源の更なる魅力向上やまちなにぎわい創出、札幌の将来を担う人材の育成を図ります。

文化芸術が持つ創造性を生かした産業活性化に向けた取組の推進

企業とアーティストやデザイナーをつなげる展示会、地元企業や産業との連携によるビジネスパーソンを主な対象とした体験型のワークショップなど、アートを媒体とした多様な企業の交流・連携につながる事業の実施を検討します。

文化芸術を生かした地域活動の活性化

音楽や地域の伝統芸能など、地域における文化芸術を活用したイベントの開催、地域に滞在するアーティストとの交流など、文化芸術を生かして地域のにぎわいの創出・交流を促進し、まちの活性化を図る取組を行います。

文化芸術などを通じた都市間の連携による取組の推進

創造都市ネットワーク加盟都市、交流協定締結都市⁵¹、北海道や道内他市町村等との文化芸術や観光などを通じた継続的な交流により、相互の都市の魅力向上を図ります。

⁵⁰ Information and Communication Technology の略。情報通信技術。

⁵¹ 札幌市が観光や文化を中心として交流協定を締結している都市。鹿児島県鹿児島市（観光・文化交流）、長野県松本市（観光・文化交流）、静岡県浜松市（音楽文化）。

助成制度の在り方の検討【再掲】(★)

文化芸術振興助成金の制度の運用方法等の見直しを進めるとともに、社会包摂、多世代交流、地域のにぎわいの創出など、まちづくりに寄与する文化芸術を活用した取組への支援制度の検討を進めます。

文化芸術と環境の融合

芸術関連施設の集積した芸術の森地区や高い芸術性が評価されるモエレ沼公園など、自然と芸術が調和した環境を生かした取組を推進していきます。

教育機関等との連携

美術鑑賞、制作体験、音楽鑑賞等を通して子どもの感性を磨き、豊かな情操を育む取組を行うとともに、その効果を一層高めるため、事前・事後に行う学習との関連を十分に図ります。

福祉分野での文化芸術の活用(☆)

障がいのある方たちが自主的に行う創作的活動などへの助成や、作品展示の機会などを通じた情報発信により、社会参加の推進や障がいに関する理解の促進を図ります。

他都市や国における他分野との連携の事例

【岐阜県可児市】

- ・文化芸術を活用して、子育て支援、高齢者の生きがいづくり、多文化共生⁵²などの地域課題に取り組む「まち元気プロジェクト」を展開。
- ・公民館や福祉施設で実施する年間400回以上のワークショップには延べ7千人以上の市民が参加し、コミュニティの形成に寄与。
- ・県立高校において自己表現力とコミュニケーション能力の養成を目的に演劇手法を活用したワークショップを実施。中途退学者が約3分の1となり、新入生の定員割れも解消。



【国の文化経済戦略（平成29年（2017年）12月）】

- ・地域の美術館・歴史博物館を中核とした文化クラスター⁵³を創出し、地域の文化財の魅力発信、観光振興、多言語化による国際発信、ユニークベニュー⁵⁴の促進など、地域文化資源の面的・一体的整備を推進する。（文化庁）
- ・国際会議やミーティング、インセンティブ旅行⁵⁵、イベント等のMICE⁵⁶開催に当たって、博物館や美術館、歴史的建造物等のユニークベニューの利活用を推進する。（観光庁）
- ・歴史的建造物群を中心としたまちなみ整備や、文化イベントを契機とした地域の活性化、名所・観光地・食文化等地域文化資源と連携した空間創出によって、にぎわいを創出し、交流人口を増加させるとともに、これらと連携した中小企業・小規模事業者の事業活性化を図る事業を支援する。（経済産業省）
- ・伝統工芸や繊維等の地場産品の産地への観光客誘致・海外販路開拓を後押しするため、各産地にデザイナー等の外部人材を招聘する取組等を推進する。（経済産業省）
- ・民間企業の海外オフィス・工場における日本の文化芸術のPRの実施をはじめ、美術品に囲まれたイノベティブ⁵⁷なオフィス環境の整備や、企業が設置した美術館等を生かした商品開発・販売促進の推進、従業員への文化研修や文化芸術活動支援を通じた「働き方改革」の推進など、企業の本業と文化活動が密着した新たな企業経営を促進する。（経済産業省）
- ・イノベーションを促進するため、高度デザイン教育に取り組む大学等高等教育機関によるプラットフォームの構築等を支援し、モデルとなる教育カリキュラムを検討するとともに、地方大学も含めた横断的な産学連携を図り、高度デザイン人材の育成を図る。また、企業のブランド力向上に資するデザインの保護・活用の在り方を検討する。（経済産業省）

⁵² 国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと。

⁵³ 文化集積地区。

⁵⁴ 歴史的建造物、文化施設、公的空間等で会議・レセプションを開催することで特別感や地域特性を演出できる会場

⁵⁵ 企業の行う報奨・研修旅行。

⁵⁶ Meeting（会議）、Incentive travel/tour（報奨旅行）、Convention（国際会議・学会）、Event/Exhibition（イベント／展示会）の頭文字をとった造語。

⁵⁷ 刷新的な。革新的な。

文化芸術の広がり②～メディア芸術～

メディア芸術への期待

文化庁が推進している「メディア芸術」では、メディアアートと並んでゲームや映像表現、アニメーション、マンガが芸術表現として捉えられ、国内外に広く発信されています。そのため、これまではサブカルチャー⁵⁸と捉えられてきた表現分野が、今後、日本の文化芸術の中心の一つとして発展していくことが期待されています。

身近にある芸術

メディア芸術は、老若男女を問わず、広く市民に親しまれています。札幌市が例年実施している「文化芸術意識調査」において、『この1年間に鑑賞した文化芸術の分野』、『札幌市が力を入れて振興したほうが良い文化芸術の分野』といった設問では、メディア芸術が常に上位に入っており、札幌市民にとっても、興味・関心の高い文化芸術分野と言えます。

期待される効果

内閣府が進めるクールジャパン戦略⁵⁹においても、メディア芸術に含まれるアニメ、マンガ、ゲーム等のコンテンツが、ファッション、食、伝統文化等とともに、外国人がクールととらえる日本の魅力の一つとして位置付けられ、日本の経済成長につながるものとされ、地方創生の観点からも注目を集めています。

例えば、鳥取県では、漫画を地域活性化のツール⁶⁰として積極的に活用しており、県内の2つ空港の名称に、同県ゆかりの作家のアニメ主人公の名称を付すほか、イベント開催による交流人口の拡大やクリエイティブ産業支援など特徴的な取組を展開しています。

このようにメディア芸術は、新しい時代の芸術発展の牽引役として、また、地方創生や海外展開などといった経済的発展にも関わるものとして期待されています。

⁵⁸ 正統的・支配的な文化に対し、若者など、その社会内で価値基準を異にする集団に担われる文化。

⁵⁹ 外国人がクールととらえる日本固有の魅力（コンテンツ、ファッション、日本食、伝統文化等）を付加価値とし、産業として発展させることで海外需要を獲得し、日本の経済成長につなげるブランド戦略。

⁶⁰ 道具、工具、手段、方法等。

札幌の世界水準の文化芸術を国内外へ発信したり、国内外の創造都市と交流したりすることを通じて、また、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会などの大型のスポーツイベントなどの機会と連動した取組を行うなど、国内外の観光客等が文化芸術に触れる機会を増やし、札幌の国際都市としての魅力を一層高めていきます。

主な取組

(★)は、新規に実施又はレベルアップする取組
 (☆)は、既の実施しているが、初めて計画に盛り込んだ取組

創造都市ネットワークを活用した国内外の都市との交流・情報発信

市民が多様な文化芸術に触れる機会を創出するとともに、本市の文化芸術を戦略的かつ積極的に情報発信し、具体的な連携を促進するため、「ユネスコ創造都市ネットワーク」や「創造都市ネットワーク日本」を活用して国内外の創造都市との交流を進めます。

さっぽろ雪まつり (☆)

世界的に有名な札幌を象徴する祭りであるさっぽろ雪まつりは、芸術的な大小の雪氷像で雪と氷の祭典を展開し、札幌の魅力を発信します。また、プロジェクションマッピング⁶¹でアートに触れる機会を提供するとともに、AR⁶²等の ICT を活用した雪とアートの融合により、さっぽろ雪まつりの魅力向上につなげていきます。

さっぽろホワイトイルミネーション (☆)

日本で最初のイルミネーションとして 1981 年から続く札幌の初冬を彩るさっぽろホワイトイルミネーションにメディアアーツの要素を取り入れた新たなイルミネーションを展開します。

大規模イベントとの連動 (★)

スポーツなどの大規模イベントと既存の文化芸術イベントを連動させることで、相乗的に興味・関心を高めるとともに、多くの市民や観光客へ札幌の魅力を発信します。
 また、2020 年には、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に合わせて様々な取組を実施します。

⁶¹ 映像やコンピュータグラフィックスをスクリーンなどの平面に単純投影するのではなく、建築などの立体物や凹凸のある面にプロジェクター等で投影する映像技術。

⁶² Augmented Reality の略で「拡張現実」を意味する言葉。現実の風景に、デジタル合成によって作られた文字や画像等の情報を重ね合わせて表示することで、人間の現実認識を強化する技術。

PMF（パシフィック・ミュージック・フェスティバル札幌）【再掲】

世界中から選抜された若手音楽家に対する一流の音楽教育の場として、世界有数の音響を誇る札幌コンサートホール（Kitara）や札幌芸術の森など札幌が誇る文化資源を活用するとともに、大通公園やもいわ山での演奏会など観光資源も積極的に活用することで、世界各国から参加するアカデミー生⁶³や教授陣、各地から来る観客を通じて、札幌の魅力と音楽文化に対する貢献を世界に発信します。

サッポロ・シティ・ジャズ【再掲】

ジュニアジャズスクール⁶⁴による国際交流や、海外ジャズフェスティバル⁶⁵へのコンテスト優勝者の派遣などといった、海外プロモーション活動を通じて、参加者の中から国内外で広く活躍するアーティストが輩出されてきています。今後も、様々な取組により札幌の音楽文化の発展・発信に努めていきます。

札幌国際芸術祭【再掲】

札幌の大きな特徴である寒冷な気候や雪、さらには北方圏の文化などを題材とした作品やプロジェクトを紹介するなど札幌の魅力を生かした独自性のあるプログラムを展開します。また、海外のディレクター⁶⁶やアーティストの招聘などにより、文化交流や情報発信などを含めた国際的な連携を高めていきます。

札幌交響楽団による鑑賞機会の提供【再掲】

道内唯一のプロオーケストラの演奏を、国内外で評価の高い音楽専用ホールの札幌コンサートホール（Kitara）を拠点として楽しむことは、札幌のまちの魅力につながっています。本市では引き続き同楽団の支援を継続するとともに、文化・スポーツイベントなど様々な機会に、同楽団の優れた演奏が多くの市民、観光客の方々に提供されるよう、取り組んでいきます。

⁶³ オーディションで選ばれた世界各地から集まる若手音楽家。

⁶⁴ ジャズ音楽を通じた豊かな情操の育成を目的として、小中学生を対象に、平成 12 年度（2000 年度）より継続している。定期演奏会、福祉施設での演奏活動、道内他地域のジャズスクールとの関係などを行っている。

⁶⁵ 19 世紀末から 20 世紀初頭にかけて、アメリカ合衆国南部の都市を中心に派生した「ジャズ音楽」を中心とした音楽祭（＝ジャズフェスティバル）のうち、日本国外で開催されるもの。

⁶⁶ ここでは、芸術祭の企画立案及び監修を担う芸術監督。

ステージ4 視点の検討

(1) 施策の設定

市民が入手しやすい情報の発信方法、文化芸術に関する情報の保存・蓄積の在り方、文化芸術の特性に留意した評価方法など、各ステージの取組を効果的に進めるための施策を定めます。

施策4-① 情報発信機能の強化

施策4-② 情報の蓄積に向けた調査・研究

施策4-③ 将来の文化芸術活動を活性化させるための調査・研究

(2) 施策の内容

施策 4-① 情報発信機能の強化

市民や観光客が文化芸術活動に触れ、参加するためのきっかけづくりとして、文化情報や観光情報を集約し、報道機関やホテル等の観光関係産業とも連携し、より分かりやすく効果的に提供・発信します。

主な取組

情報発信・共有システムの検討

公式アプリ「札幌いんふお」におけるアプリの特性を生かすとともに、公式観光情報サイト「ようこそさっぽろ」を活用して、観光情報と併せた文化芸術情報を発信するなど、市民や観光客にとって魅力的な情報発信を行うほか、観光客の周遊促進に向けたコンテンツ作成についても検討します。

集客力の向上を図る積極的な情報発信

イベント等の情報発信を市民交流プラザや大通情報ステーションなど都心部の集客力の高い空間や、ホテルなどの関連産業と連携して行うほか、SNS等の活用によりイベントに参加した市民が新たに情報の発信者となるような、広く情報が波及する仕組みを検討します。

文化芸術に関する情報を蓄積することで、将来にわたって、新たな文化や価値の創造や、関連分野における応用・活用に資するものとなることから、多くの人がこれらの情報を利用するための望ましい仕組みの在り方を検討します。

主な取組

(★) は、新規に実施又はレベルアップする取組

文化芸術に関するアーカイブ化の在り方の検討 (★)

文化芸術に関する情報を広く利用できる仕組みとして、データベースの活用などアーカイブ⁶⁷の持続可能な在り方について、検討を行います。

⁶⁷ コンピューターで、関連のある複数のファイルにまとめること。

施策 4-③

将来の文化芸術活動を活性化させるための調査・研究

将来の札幌の文化芸術活動の活性化につながるように、文化芸術に関わるデータの収集、国や道内、道外他都市との情報交換、市民ニーズの分析などの調査研究に向けた取組を行います。また、文化芸術分野の特性を十分に踏まえ、量的・質的双方の側面を含む適切な評価方法の検討を進めます。

主な取組

基本計画の推進・評価に向けた取組の検討

文化芸術の本質的価値(創造性と感性を育む等)など、文化芸術分野の特性を踏まえ、定量的のみではない適切な指標の検討を行うなど、定性的な側面も捉えた施策の改善に資する評価の在り方の検討等を行います。

定期的な調査等の実施による市民ニーズの把握と活用

文化芸術活動やニーズに関するアンケートを継続するとともに、市民、アーティスト、文化芸術団体等による意見交換を行い、文化芸術に関する施策の推進・方向性の検討に活用します。また、他都市との情報交換などにより、比較可能な指標について調査を行います。